

## 会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開および委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会議名	第1回高松市創造都市推進懇談会（U40／3期）
開催日時	平成29年1月26日（木） 18時30分～20時35分
開催場所	高松市役所3階 32会議室
議 題	（1）事務局あいさつ （2）事務局説明 （3）自己紹介及び会長・副会長の選出 （4）人見前会長から説明「創造都市について」 （5）トークセッション「創造都市について」
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	大美委員、桑村委員、児島委員、坂口委員、笹川委員、高島委員、田中司委員、田中祐委員、谷委員、徳倉委員、西谷委員、眞鍋委員、宮井委員、吉岡委員、若宮委員、渡邊委員
市職員	藤本、三浦、小松、吉田、住吉、末澤、田村、杉原、本条
事務局	佐藤参事、橋本部長、平田補佐、溝淵補佐、塩田係長、永木
傍聴者	3人（定員5人）
担当課および連絡先	産業振興課 創造産業係 839-2411

### 審議経過及び審議結果

- 1 開会
- 2 佐藤参事からあいさつ
- 3 事務局説明（橋本部長）
 

みなさん、こんばんは。創造都市推進局 産業経済部長の橋本でございます。委員の皆様方におかれましては、本懇談会の委員を快くお引き受けいただきありがとうございます。

このU40は、本市が創造性を生かしたまちづくりを推進するに当たり、各方面で活躍している若い世代の意見を聴くために設置している会で、平成24年度から始まり、今期で3期目となります。

これまでの成果を振り返ってみますと、まず1期メンバーには「創造都市推進ビジョン」策定の際の、特に各論の6つのプロジェクトの取組イメージについて、アイデアをいただきました。また、リニューアル前の高松市美術館喫茶スペースを利用して、「異業種空間創出事業」を実施しました。

また2期メンバーは、テーマに分かれてグループワークをし、大学生や一般市民のみなさんの前でプレゼン発表する「公開U40」を実施しました。2期メンバーから頂いた反省点としては、「メンバーが30代後半に

## 審議経過及び審議結果

偏りすぎている」「1期が考えたビジョンを意識できていなかった」「目的が漠然としている」「目に見えるアウトプットがほしい」「なるべく多くの人目に触れる会に」などの声がありました。

これらの声を踏まえ、第1回目となる本日は、みなさんの「創造都市」についての共通理解を深める会と位置付け、事務局からも、3期のみなさんをお願いしたいことをお伝えしたいと思います。

お願いしたい役割は次の3つです。

まず1つ目は「ビジョン改定のアイデア出し」です。現在の「創造都市推進ビジョン」については、期間を平成25年10月から平成29年度までと定めており、来年度中に改訂版を作成したいと考えております。皆様方には、ビジョン改定版に掲載する内容について、アイデアをいただきたいと思っております。

2つ目の役割は「U40として、何か目に見えるかたちの成果を残すこと」です。2期メンバーからの反省点として、「目に見えるアウトプットがほしい」という御意見がありました。具体的な形は、今後の議論の流れによるところもありますが、事務局としては、2017年、大西市長が「つながり」をテーマに掲げていることもあり、「人が人をつなぐきっかけとなる場づくり」をイメージしております。U40の活動を広め、次のU40世代の育成にもつなげていけるような場ができればと思っております。

3つ目の役割は、「市の具体的な事業に御意見をいただくこと」です。これについては、事案がある場合に、随時、御意見をいただくような形になるかと思えます。みなさまには、いろんな御意見、アイデアを頂戴することになるかと思えますが、頂いた意見の全てが、直ちに施策に反映されるわけではなく、実現までに時間のかかる内容や、そもそも聴くだけにとどまる内容も多くなることが想定されますので、その点は御了承いただきたいと思えます。

また2期に引き続き、市のU40世代の若手職員も一緒に議論に参加させていただきます。入庁1年目の者から30代後半の職員まで、知識や経験も様々な職員が参加しておりますが、高松に対して熱い思いを持ったやる気のある職員ばかりが参加しております。どうぞよろしく願いいたします。

皆様の任期は、平成30年11月末までの2年間になります。委嘱日現在の年齢が40歳未満であることと、継続は2期（4年間）までというルールで実施しております。

どうぞよろしく願いします。事務局からの説明は以上です。

## 4 自己紹介及び会長・副会長の選出

出席委員及び市職員U40が自己紹介。

坂口委員が徳倉委員を会長に推薦し、他の委員も承認。

徳倉会長が坂口委員と大美委員を副会長に指名。

徳倉会長からひとこと

どうイノベーションをおこしていくか。私自身ワクワクしている。ここでしかできないことを話しながら、発信したい。いろんなアイデアを出しても

95%はつぶれる。残った5%がまちを変えていく大きなひとつの提言になる。5%がなんなのか、この2年間で探していきたい。

ひとつお願いしたいのは否定的なことを言わないということ。どこまでも前向きに提言をまとめて、あきらめずに進めていきたい。

坂口副会長からひとこと

2期からの引き継ぎの役割も果たしたい。2期では、政策として実現しにくいとか、ここで話したことが何になるのかといった厳しい声もあったが、たった数%でも実現につながるよう、前向きにまとめていきたい。

大美副会長からひとこと

子育て中。子どもを通して見えることや、私の子育ての立場で見えること、それ以外に見えていないところはみなさんに教えていただきながら、自分にできることを、身の丈でやっていきたい。

## 5 人見前会長のお話「創造都市高松のこれまでとこれから」

1期・2期でやったこと

- 1期：ビジョン各論の議論
- 2期：各課の課題に対するアイデア出し／公開 U40（チームごとのプレゼン）

創造都市のベースは「広域拠点あり方検討委員会からの最終報告」にある。

- ・社会経済情勢の変化を前提とした持続的発展の可能性の追求
- ・国内の人口減少に伴う都市間競争の高まり（選ばれる都市へ）

ここから「クリエイティブなまちづくり」が始まり、「創造都市」という考えにつながっている。社会経済情勢の変化に、人口減少も含まれるが、現在42万人いる人口が40年後には30万人くらいになるだろう。そうすると、人口が減り、財源も減る中で、いかに活力のある都市を作っていくのか、これを考える都市政策の1つが創造都市である。

U40の親会である創造都市推進審議会の座長も務められている佐々木先生の「創造都市」の考え方は次のとおり。

「創造都市とは、人間の創造活動の自由な発揮に基づいて、文化と産業における創造性に富み、同時に、脱大量生産の革新的で柔軟な都市経済システムを備えた都市である。」こういった定義をもとに議論してきた。

創造都市は、全国的にまた世界的にネットワーク化されている。

世界の事例（ポーランドでの新しい産業モデル、グラスゴーでの工業都市から文化芸術を創造とする都市への変化。）。関係性の再構築。

高松市の事例（まちなかパフォーマンス事業、EAT BEAT!、匠のおもてなし、サポート高松トライアスロン、ミラノ万博盆栽トップセールス、瀬戸芸、高松市美術館リニューアル、芸術士派遣事業）

文化芸術といいながら、スポーツも文化の範疇として、ビジョンでも取り上げている。

ここまででわかることは、「市が推進する＝事業をやる」ということ。

持続可能性・地域活力を育む

縮退戦略（多核連携型コンパクトエコシティ（ハードの戦略））

創造都市戦略（ソフトの戦略）

コンパクトとネットワーク型の都市づくりと創造都市が表裏一体の関係にあるのが望ましい。

ビジョンの中でもっともユニークなのは「こども」。全国的に見ても創造都市の中で「こども」をテーマに議論しているのは珍しい。

平成20年 広域行政時代における拠点地域の在り方に関する調査研究

平成24年 創造都市推進局設置

創造都市推進審議会設置

創造都市推進懇談会（U40）設置

平成25年 創造都市推進ビジョン策定

## 6 トークセッション「創造都市について」

【会長】

創造都市の定義を簡単に言うと「明るく楽しいまち」というイメージでいいか？

【前会長】

いいと思う。

【会長】

昨日の四国新聞に2016年県人口移動調査の記事があり、高松市でも人口が減り始めてきたことがわかった。首都圏への一極集中が止められない。高松は人口流出県で、高校までは高松で過ごしても、進学で高松を離れたら出たまま。先ほどの人見さんの説明の人口シュミレーションに40年後の数値があったが、40年後も生きているいまの子どもたちが高松を選んでくれるのか？リアルに危ないなと思う切迫感がある。先ほど95%はアイデアがダメになる話をしたが、残りの5%で、あのとき上の世代の人たちがこういう選択、種を蒔いてくれたから、あの種を選んでくれたから今があるみたいなことを想像しながら、創造都市のビジョン策定をしていかなくてはいけないのかなと思う。2期からの引き続きのメンバーのみなさんの感想を聞きたい。

【委員】

ビジョンを作った1期が話したことを、2期に引き継いだ感はなかった。

【委員】

自分たちの求められているところがわからなかった。ゴールがないところにひたすら走れと言われても、どうしたものかなという感じ。とにかく議論してください、今日はこの議論、次はこの議論という感じだった。

【委員】

一休さんにトラを捕まえる話があるが、そんな感じ。

【委員】

1つ1つの議論は良かったけど、創造都市という大きな流れになっていたのかな、どうなのかなという印象。

【会長】

白いキャンバスにとりあえずその時々議論に応じた点を入れて、そのまま放置みたいなイメージですか？もっと具体性はありました？

【委員】

テーマによっては、具体的な意見が出る会もあったし、自分も知識が限られているぶん、浅い議論にしかならなかったこともある。95%のムダという話を聞いて、どんどん意見をかわしていくというところからはじめたらいいのかなと思った。

【委員】

議論したことの結末がどうなったのかが見えなかった。実現できない95%ならそれでもいいので、せめて何でダメだったのか、教えてほしかった。ビジョンを意識して議論できていたかと言われるとちょっと違ったかなという気がする。

【市 U40】

市の仕事のためにアイデア頂戴って言って、「ありがとう。持って帰るね！」で終わる。次の展開に何にもつながっていなかった。

【事務局】

事務局の中でも、考えや思いを統一できていなかったところがある。自分の立場でなにもできなかったことは申し訳なく思っている。

【前会長】

自転車は3cmもあれば車輪は通る。でも道幅が3cmしかないところを通ることは難しい。道幅が広く必要なのは、創造性を生むために必要な余白のようなもの。95%のムダは容認したいなという気持ちがある。今が過渡期だからこそその悩みも出てくると思う。

【会長】

事前協議の際に、市が U40 に何を求めているのかをはっきり示してほしいとお願いした。先ほど事務局から3つのお願いがあった。

まず「ビジョンの改定」に向けたアイデア出し。政策提言に慣れていないメンバーが多くいる中で、どうまとめ上げていくか。僕たちメンバーで何ができるのか、やりたいことも含めたビジョンの改定で良いのか、また事務局から返答してほしい。

U40 の出すアイデアの中から5%を生み出したい。チーム公務員は、公務員ならではの力で、5%を6%7%にしていくためのアイデアを出してほしい。ここが一緒にやるもっとも大きなシナジーになる。このままいくと難しいけど、ここをこう変えたらいけるかもというアイデアを出してほしい。

2つ目は「U40 として何か形を残す」ということ。U40（2期）の公開 U40 でまとめた提言の1つである「飛行機マークのピクトグラム」は、ことでの真鍋社長が実現につなげてくれたが、U40 から出たアイデアがつながったという認知は、市民にも市の職員にも少ないのではないかと。上手に周知していく意味で、情報発信とセットにしていかないとアウトプットが評価されにくい。

3つ目は「市の具体的な事業に意見する」こと。95%のムダの話をしているが、いい意味で眠ってしまう意見も出てくると思うのでガンガン出していく。市民として行政にアイデアを出せるパスポートが2年間あるというのは貴重で、伝えたいと思っている人にとっては魅力的なこと。自分が U40 の委員であることをどんどん公言していただきながら、いろんな人の声を届けてほしい。

何をするのか、そこから自分たちで考えるということが大事だと思っている。

私も今回ビジョンをよく読んでみた。例えば、EAT BEAT! は、イベントを企画し

た人も、イベントのことも知っていた。高松市のことも割と知っているけれど、創造都市という流れでできたイベントだったことは初めて知った。一般市民がそこまで知る必要はないのかもしれないけど、このビジョンを再度読んでいただき、何を変えるべきかそのまま活かすべきか、考えていきたい。

【事務局】

事務局としても、まるっと削除する部分があってもいいし、そのまま活かすところがあってもよいと考えている。主に各論の改定を議論してもらおう予定だが、6つのプロジェクトそのものを変えていってもいいと思っている。

【前会長】

創造都市では文化芸術の振興を謳っているのに、産業振興課がまとめている。経済の発展というところにつなげていかないといけないの？という点についても議論してほしいなと思う。

【委員】

初めて参加するので意気込みはあったが、実際この場でどういう議論をしていくのが見えないまま参加していたことを反省している。ビジョンをちゃんと作って、何かメンバーでかたちに残せたらいいなと思った。

【委員】

事務局目線で見ると、意見をもらっても予算やスタッフが足りなくて実現できないこともあるんじゃないかと思う。ここでの議論で、予算はどう考えるのか？

【会長】

事務局にも確認が必要だが、私自身は予算もセットで考えたいと思っている。アイデアを早めに出して、確度の高そうなものを選んで予算化していく。次年度がもし無理でも次の期で実現できたらくらいの気持ちで。

【市 U40】

2期の議事録を読んでも、いっぱい出たアイデアがそのままになっていた。いただいたアイデアについて、何でできなかったのか返事をするべき。ダメな理由がわかれば別のアイデアを出すこともできたはず。

【会長】

これまでの話を聞いて、1期2期の活動の正の部分は活かし、負の部分は改善する必要があるということ。U40 とチーム公務員との意思疎通。U40 とチーム公務員、そして事務局、事業によっては他課との折衝も出てくるかもしれないので、他の課ともうまく進められるよう、うまくつなげていきたい。U40 という組織があるのは、全国的にも珍しいこと。

我々がピンとくるビジョンを作らないと誰が見てもピンとこない。

ここで2月21日までのお願い。「自分がやりたいこと」のアイデアを3つ。自分たちの専門分野、特徴を持ち寄って、高松を明るくしていくためのアイデアを考えてきてほしい。

例えば「冬のまつり」。若者の手作りで作る方法はないか？この3カ月で死ぬ気で考えてクラウドファンディングで資金を集めて、集まった金額の範囲内でやるとか。中央公園は市の管轄だし。イルミネーションにお金がかかるのであれば、夜じゃなくて昼間にスポーツイベントをやるとか？高松市はおしゃれな大人が楽しめるイベントは多くなったが、マチのど真ん中で幼稚園児や小学生など子ども連れで楽しめるイベントはあるか。

小さくていいので、小さい成功体験を積み上げながら、市民のみなさんに注目して

いただいて、大きく物事を動かしていけたら。

公務員のみなさんは、自分のいろんな専門性がありながら、今いる部署が自分の願っている部署ではないかもしれない。でもこういうことをしたいと思ってることを、若さや経験に関係なく出して行ってほしい。

だめなときにもレスポンスがあれば、継続議論して、形を変えてつなげていける。

このビジョンで自分たちのやりたいことができるのかという視点で見ると、ビジョンの改定がしやすくなる。それをしていくと、具体的なかたちにもなるかなと。

【前会長】

各論の「食」に、「地元の農水産物を取り入れた、体も心も元気になる食事の在り方の研究」という項目がある。食育をテーマにした会で、地域の小学校の給食に地域の畑で採れた野菜を出したらどうかという意見が出た。アイデアレベルでは理にかなっているが、給食は栄養の数値管理がされて、少ない管理栄養士さんが市全体の栄養を管理しているので、ひとつの小学校で別のものを使うと管理がくるってしまう。いろんなコストをかけないと実現できないという話だった。そういう感じで壁が出てきた時に、やむを得ないとするのか、別の方法で乗り越えようとするのかわからないが、そういうところで95%ができています。3期の人には乗り越えてほしいなと期待している。

【委員】

中身を考えた上で予算をつけるほうが、事業としても成功しやすいと思うので、具体的な議論をしていきたい。

【委員】

ここに来る前に、これがしたいなあれがしたいなというのを持ってきた。みなさんにいろんな意見をもらいながら実現につなげていきたい。

【委員】

1期・2期の方が作ってこられた点を検証する必要があると思う。給食の事例もそうだが、95%の中に入ってしまったアイデアの中にはもう一歩で5%になれたかもしれないものもあるはず。検証に時間をとるのは大事なことだと思う。

【前会長】

制約条件が厳しければ厳しいほど、クリエイティブな発想ができるそう。

【委員】

来月に向けて自分のやりたかったことをぶつけてみたい。

【市 U40】

市職員はどちらかというと、だめなら別のことを考えようとするが、みなさんは常に前向きで、実現したいからどうしたらいいかを考えようとする。それが真反対だなと思う。今後どんなものが生まれるか、ワクワク感がとまらない。

【市 U40】

参加して良かったなという思い。5%につなげたい。

【市 U40】

高松市は予算厳しい。クラウドファンディングで資金を集めるのが実現に一番近い。同じ世代が考えることには賛同してくれる人がいるはず。給食も継続してやるのは難しくても1回ならできる方法があるはず。1回でもちゃんと伝えれば子どもの心に残る取組みになると思う。

【委員】

現場の担当者と事務方のレベルでは回答が違うことがあった。継続議論できたら、

もっと深めていけるかも。

【委員】

公務員の人たちの意見を聞いてすごく感動している。想いを持っていること、関わりたいという気持ちに感動している。

2つ意見がある。まず1つ目は、小中高生が楽しめるイベントがない。「みんなデートどこ行くの？」って聞くと「ゆめタウンかな」とか言われる。楽しい思い出がないと、高松に戻ってこないんじゃないかと思う。楽しい思い出のデートスポットが必要かなと。

中高生がやり遂げるイベントも全然ないなと思う。四国出身者と県外から四国のどこかのエリアに来て好きになった人たちと東京から発信するプロジェクトにも参加している。地方の中高校生が企画したイベントを、大人がサポートしてあげて、最後に花をもたせて「自分達でできた」という実績を持たせてあげる。失敗しても大人がフォローするからという体制。子どもたちがこのまちの可能性を感じるのは大事。

香川県の小学生のスポーツテストの成績は下から数えた方が早い。運動不足の問題。スポーツ鬼ごっこなどをやっているが、スポーツでアスリートをめざしているものではなく、大人も一緒に、達成感や統一感をもたせるために、スポーツをツールとして他のものを知ってもらうというもの。

スポーツという気負いをせずに始めて、これってスポーツだったんだという感じで体感してほしい。スポーツ×何かの組み合わせにも可能性を感じている。

【市 U40】

さっきの給食の話なら、マイランチの日に自分で地産地消を意識したお弁当づくりができるんじゃないかと思いついた。知っている知識は限られているが、みんながアイデアを出し合うことで解決の糸口が見えることもあると思う。

【市 U40】

建築が好きという思いがあって、高松に何度も来たというのがある。

民間での経験もある中で、市役所に入って10カ月で少し固まってきている部分を少し感じた。自分の仕事に一生懸命になりすぎて広く見れていないところがあると思ったので、5%を6%7%にしていくためのアイデアを出すために、学んでいかないといけないと思った。

【市 U40】

入庁当時の想いを思い出して、前向きに考えたいと改めて思った。いま文化財と聞いて興味のある世代が高齢の方に限られているので、文化財を通して市民に還元できることがないかここで考えていきたい。

【市 U40】

U40で収入が上がるようなことをアイデアとして出して、この収入をこの事業にあてるみたいなことはできないのかなと思っている。

【会長】

すごくいいアイデア。究極的には自走させる仕組みや箱がないと絶対にうまくいかない。一般的には行政は稼ぐことはできないが、どういう団体ならそれが可能なのか、できる仕組みを考えることが大事。財源は減り続ける、人口も減り続ける、それをどう食い止めるか、どう緩めるか。ここ5年10年でやらないとダメになる。この2年間では無理かもしれないけど、プラットフォームを作っていこうみたいなことも考えている。



【市 U40】

自分のプライベートから変えていきたい。

【委員】

神山の NPO グリーンバレーで打ち出しているモットーが、「出来ない理由よりできる方法を。Just Do It!」。ほんとにやりたいと思ったら、何か方法がある。芸術士や高松トライアスロンも、最初は一市民の思いつきのアイデアだったものが、出来る方法を探し続けて、実現に結びついた例。

【委員】

今日ここにきてわかったことがいっぱいあった。ビジョンがピンとこなかった感覚もこれで良かったんだなと思った。ワクワクしたし、ここにいる人たちがチームになって動いていけたらいいなと思う。同じ目線でチームとしておもしろく小賢しくやっていけたらいいなと思う。

【前会長】

行政の文脈や制約がありながらも、我々に場を開いていてくれている市はスゴイと思う。この場でどんどん発言して、変えていってほしいなと思う。

【事務局】

みなさんありがとうございました。徳倉さんに会長をしていただいて良かったなと思う。最初は、ほほえましく聞いていたが、途中からは胃の痛い話もあった。寛容性、おおらかさを持って一丸となって取り組んでいきたい。

【会長】

先ほどのチームになりたいという話は飲み会をしようということだと思うので、次回、2月21日の終了後、会費制の懇親会をしたいと思う。

あと個人的には、半年以内に皆さんの職場を訪ねたい。普段どんな仕事をしてどんな専門性があるのか知りたい。この場だけの交流では、時間もアイデアも制約があるので。ざっくばらんに、わきあいあいとした雰囲気の中で、出すアイデアや方向性はシビアにやっていくということで、2年間お付き合いいただきたい。

私の目標は、全員が脱落することなく最後までやり遂げて、素晴らしいビジョンと小さくてもいいから、こういうことを僕らはできたよねと、次の世代の人に言えるような2年間にしたい。

もう一度言います。できないことが95%です。でもここで知恵を出し合って、その5%を6%7%になるかもしれない。その1%がすごくクリティカルなものになるかも。みんなで努力して工夫して、市民もそうだし、全国の人が創造都市高松ってなんかおもしろいことやってるなと思ってもらえるようにしたい。

いろんな宿題も出ると思う。出席できないときは、事前に意見を出してもらって、何か爪痕を残してもらいたい。

今日はありがとうございました。

## 7 次回の案内

今回は、来月、2月21日（火）18：30～、市役所13階大会議室にて開催予定。今回は大西市長が参加する予定。